

【授業者から】

1. 授業についての説明

- 「問題解決能力」の育成に主眼を置いた「中央型探究授業」のモデル作りというテーマを考えたとき、まず、「問題」とは何かを考えた。英語には、“issue”→議論すべき「問題」と“problem”→解決すべき「問題」という2つの「問題」がある。そこで、今回は、議論すべき「問題」“issue”の方と捉え、身近な問題の議論をすることに重点を置いた。
- 「ディベート」の一步前の段階として、「ディスカッション」を考えた。ただのグループワークにならないように、作業分担をさせ、また、コミュニケーション活動になるよう、「他のグループに行ってグループの意見を発表、他グループの意見を聞いてきて、自分のグループに持ち帰る」という活動をさせた。
- ディスカッションのテーマ設定について、英語を苦手とする生徒が多くいるクラスのため、わかりやすく、とっつきやすいもの（「告白する時は、メールがよいか、面と向かってがよいか」）に決定した。
- 学習指導案の「評価の観点」の項目は、次の学習指導要領での「評価の観点」であり、この時点で使用することに不安もあったが、これから移行していくことを考えると、今の段階でこの観点を使用するのもかまわないだろうと考えた。
- 目標(Aim)について、「自分の言葉で再生する」ことを狙いとし、目標設定をした。(リテリング活動は普段からやっている。)

2. 改善すべき点

- 全ての班の意見が、同じ物（「面と向かっての告白のほうがよい」）になってしまった。リサーチ不足であった。

【協議会参加者から】

1. 成果

- 「他のグループに行って意見を交換し、自分のグループに持ち帰る」という活動が4技能（読む・聞く・書く・話す）を意識したものになっており、その練習の仕方が多岐にわたっていた。助け合いや深い学びにもつながる活動であった。
- ディスカッションのテーマが身近な物であり、議論がしやすく、活動が活発に行われていた。
- Warm-up から話しやすい雰囲気が作られていた。
- All English の指示に対しての生徒たちの反応が良く、日頃からやっているのがわかる。
- 生徒が自分の知っている英単語を駆使して頑張っていた。
- 何よりも生徒が楽しそうに活動しているのが素晴らしい。

2. 課題と改善策

- 全ての班が同じ意見になってしまったため、議論が深まらなかった。「メールでの告白」と「面と向かっての告白」、それぞれのメリットとデメリットを考えさせるとよいのではないか。その方が、自分の意見を書くというまとめの作業にもつながっていくだろう。
- 声の小さい生徒もいたため、教師による声かけが必要であっただろう。

●リテリングの活動に関して、登場人物になりきって行うのか、それとも「誰々さんは～という意見である」のような伝聞形式で行うのかの指示が必要であっただろう。(グループによってまちまちであった。) また、1人1人がプリントを見ながら行っていたが、プリントの絵の部分だけを拡大して黒板に貼って行う方が、より負荷をかけられて良かっただろう。

●生徒自身による評価や振り返りの時間がとれていなかったのが残念だ。

【指導助言の深沢先生より】

1. 成果

●英語の授業で必要とされる10項目(親和感、理解に応じた英語、インタラクション、間違いをおそれない、理解度に合わせた進度、生徒の言葉へのフィードバックなど)を網羅した授業であった。

●教師によるモデルやジョークが素晴らしく、生徒のモチベーションにつながっていた。

2. 課題と改善策

●内容確認の本文要約文の穴埋め読解に関して、内容語と機能語の両方が穴抜けになっていた。内容を思い出すことが狙いの活動なのだから、内容語のキーワードのみにフォーカスさせて短時間で終わらせた方がよいだろう。

●モデレーターの役割を担っていた生徒が、自発的に他グループの意見をメモしており、主体的で自発的な活動となっていた。

●「面と向かったの告白」のほうが良いという意見に集中してしまっていたが、理由に関してもっともっと突っ込んでいくと議論がより深まっただろう。

●英語力が足りなくて、自分の意見が言えずにいる生徒がいたので、議論の段階では、日本語でもよいことにするのも、より深い議論のためには必要なのではないか。

●理由を発表させる時に、さらに、キーワードを出させて板書したり、付箋を使用させてりして、可視化するのも議論を深めるにはよいだろう。